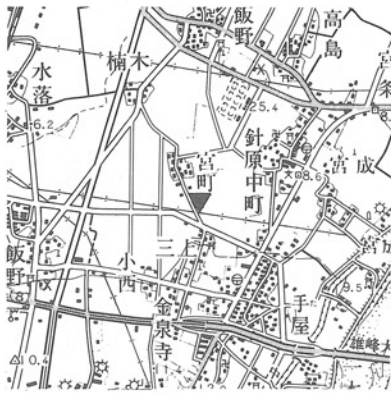


富山・宮町遺跡

みやまち

- 1 所在地 富山市宮町
- 2 調査期間 一九九五年(平7)五月～二月
- 3 発掘機関 富山市教育委員会
- 4 調査担当者 古川知明
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代～一七世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

宮町遺跡は、富山市街地の北東約5km、常願寺川左岸下流に位置する。遺跡の東側は河川の旧流路と推定され、遺跡はこれに沿って



(魚津)

形成された自然堤防上に立地する。
調査は住宅団地造成に伴うもので、一九九四年から行なっている。この二カ年の調査の結果、弥生時代後期、平安時代(九～一〇世紀)、鎌倉～室町時代(一二三～一五世紀)に大規模な集

落が形成されることが判明した。

平安時代の遺構としては二地区に掘立柱建物群が検出され、また、墨書土器「右」「西」、石製銚帯、緑釉陶器などの出土から、官衙あるいは荘園に関わる集落跡と考えられる。

中世段階の集落は、帯状に長い自然堤防の地形を利用して、幅八〇m長さ二〇〇m以上の長方形の地割を造っており、この中を溝によって大小の短冊形に区画している。区画内の敷地には、掘立柱建物・井戸・堀・水溜めなどがあり、仕切りのための浅い溝もみられる。

木簡は、室町時代の井戸SE一三から出土した。井戸は素掘り型式の二段掘りで、上半が方形、下半が円形となる。木簡の出土位置は井戸のほぼ基底部である。

8 木簡の釈文・内容

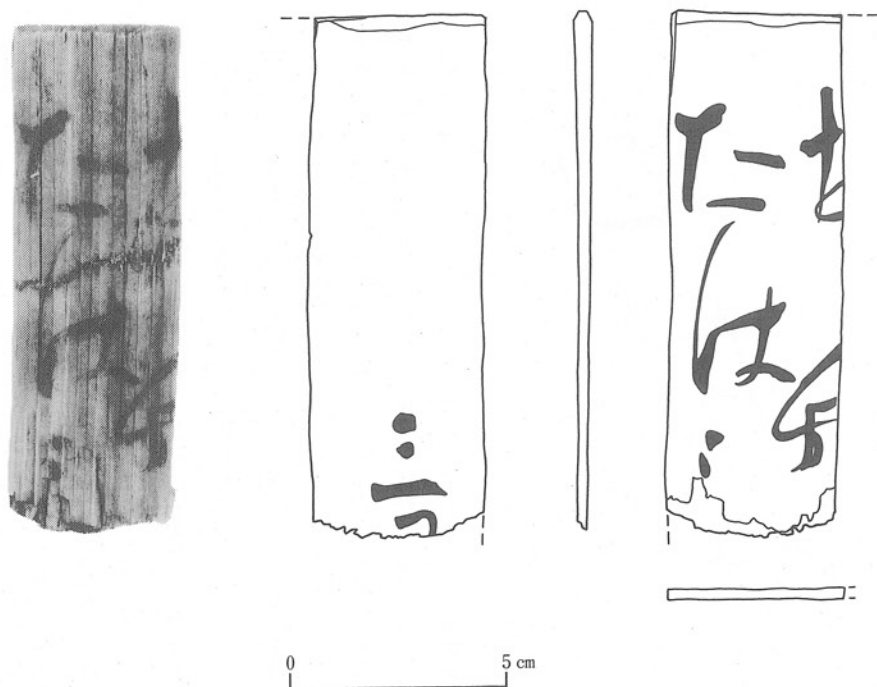
(1) 〔をカ〕
たは □□

・「三」

(121)×(41)×3 081

長方形の板材で、下端と一側面を欠く。

表面右列二文字目は妙または抄と推定されるが、この一文字のみ天地逆となっている。習書に用いられたものか。(古川知明)



(石 動)

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
五社遺跡は、小矢部川と庄川によって形成された砺波平野の扇央部西端に位置し、小矢部川と岸渡川に挟まれた自然堤防に立地する。一帯は『和名抄』にみられる砺波郡一二郷中の「長岡

6 遺跡の年代
五世紀後半～一四世紀

5 遺跡の種類
集落跡

(C1地区)

4 調査担当者
道子・柴口真澄(A地区)、池野正男・谷杉廷子

3 発掘機関
財団法人山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

2 調査期間
A地区 一九九二年七月～一九九三年三月
C1地区 一九九二年九月～十一月

1 所在地
富山県小矢部市五社

富山・五社遺跡